

(主題) ICT活用・支援員との連携について

(副題) _____

第

9-A

 分科会

(分科会名) 保健・体育教育A

(組織名) 横浜

(分会名) 保健・体育推進委員会

(発表者名)

テーマ ICT活用・支援員との連携について

I はじめに

2019年12月に閣議決定された2019年度補正予算案において、児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するための経費が盛り込まれた。文部科学省が示した「GIGAスクール構想の実現」である。当初は2023年度までの計画で整備が進められる予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大も踏まえ、スケジュールの大幅な前倒しが行われた。

横浜市では、2018年に策定された「第3期横浜市教育振興基本計画」に基づき、ICT環境の整備等計画的に進められてきたが、国の「GIGAスクール構想の実現」を踏まえ、2020年9月に「横浜市におけるGIGAスクール構想」が策定された。横浜市立学校では、2020年度に校内LANや端末などICT環境の整備が完了した。2021年9月には、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発令・延長に伴い、分散登校が実施された期間は、1人1台端末を持ち帰らせ、学習保障を行うことが求められることとなった。また、学校へのサポート体制として、教職員に対してICTを活用した授業提案や教材作成、授業準備等のサポートを行う「ICT支援員」が、2022年度は年間62回、各学校を訪問している。

各学校では、さまざまな場面においてICT活用に取り組んでおり、教職員の意識が高まっている。一方で、具体的な活用やICT支援員との連携について戸惑いを感じる場面もある。

そこで、養護教諭のICT活用・支援員との連携について現状を知り、その成果と課題を見つめたいと考え研究することとした。

II 研究課程

- 6・7月 研究テーマの検討・決定
- 8月 研究方法の検討・決定 「ICT活用アンケート」の作成
- 9月 Googleフォームによるアンケートの実施・回答の集約
- 10～12月 グループ研究
- 1月 原稿確認
- 2月 まとめ

III 担当者

- 【養護教諭のICT活用調査】
- 【小学校における実際の取組】
- 【中学校における実際の取組】
- 【研究まとめ】

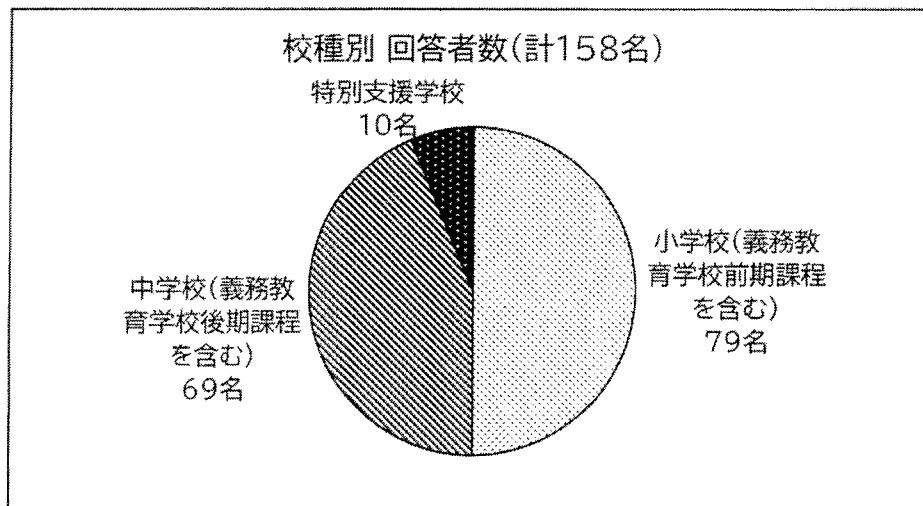
IV 研究内容

浜教組養護教諭部の養護教諭に「ICT活用アンケート」を実施し、回答を集約した。その結果を受け、小学校と中学校における実際の取組について、研究を進めた。

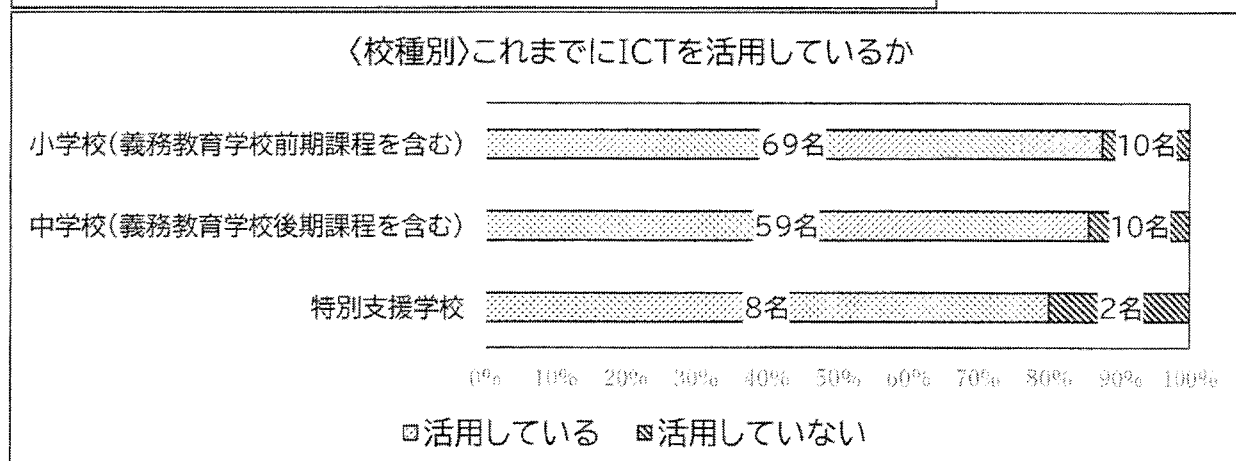
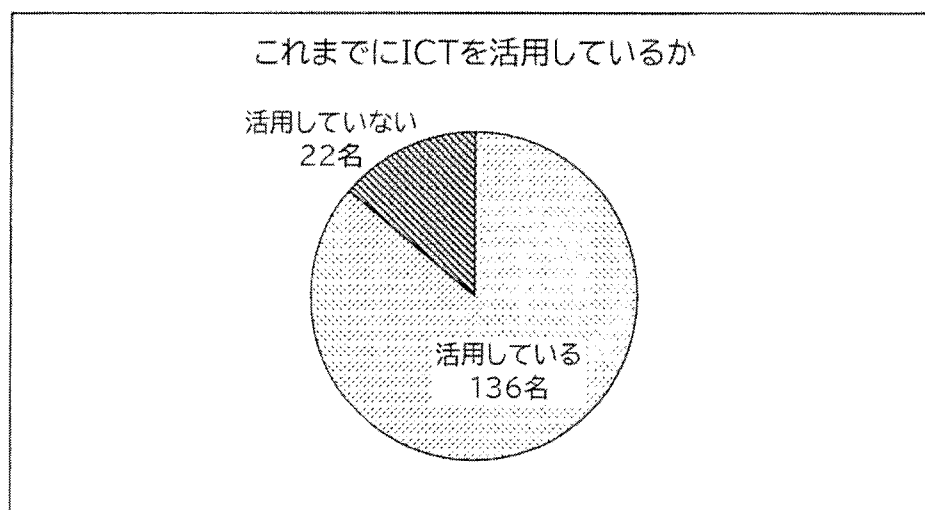
【2022年度 ICT活用アンケート 調査結果】

- 1 調査期日 2022年9月
- 2 調査対象 浜教組養護教員部員
- 3 調査方法 Google フォーム入力方式
- 4 調査結果

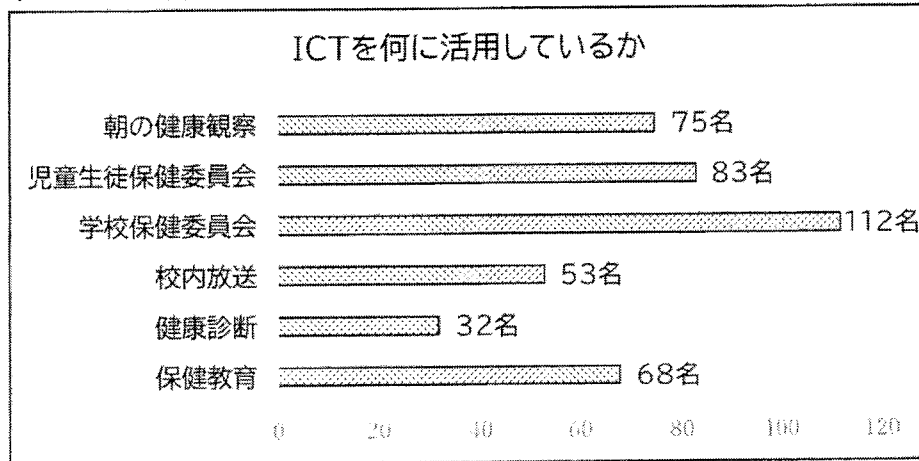
Q1 あなたの校種を教えてください。



Q2 あなたは養護教諭として、これまでにICTを活用していますか？



Q2-2 ICTを活用している方への質問 ICTを何に活用していますか？(複数回答可)



〈その他〉

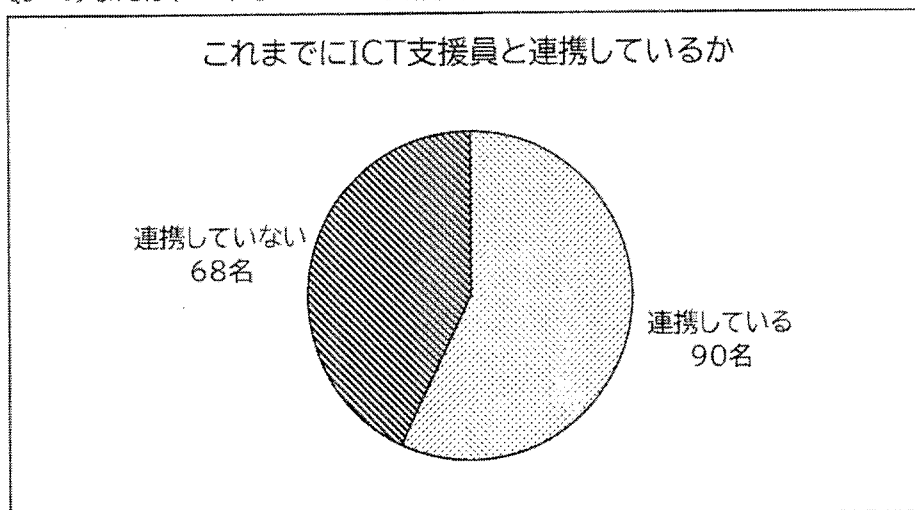
- ・職員研修
- ・健康情報の収集、記録、共有
- ・避難訓練
- ・登校支援
- ・欠席連絡
- ・区の研究会
- ・会議録

Q2-3 ICTを活用していない方への質問 活用していない理由を、よろしければ教えてください。

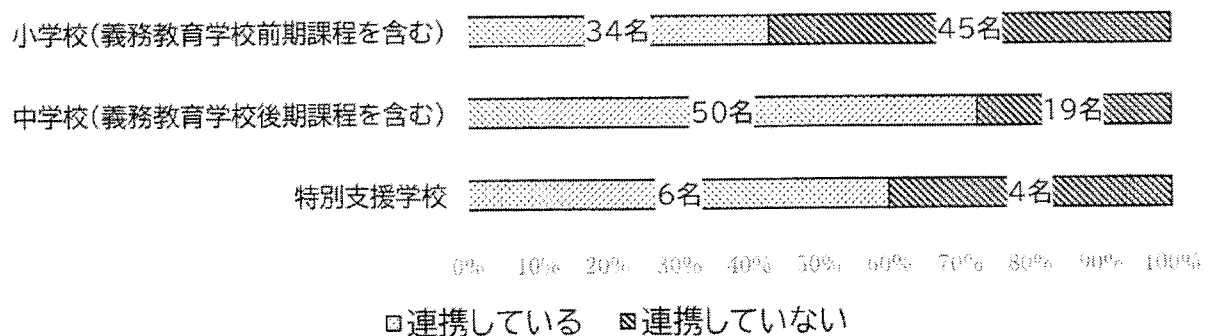
〈記述内容〉

- ・自分専用の端末が配当されていない。
- ・端末の使用方法がわからない。
- ・活用する場面や方法がわからない。
- ・活用する場面がない。
- ・活用する必要がない。

Q3 あなたは、これまでにICT支援員さんと連携していますか？

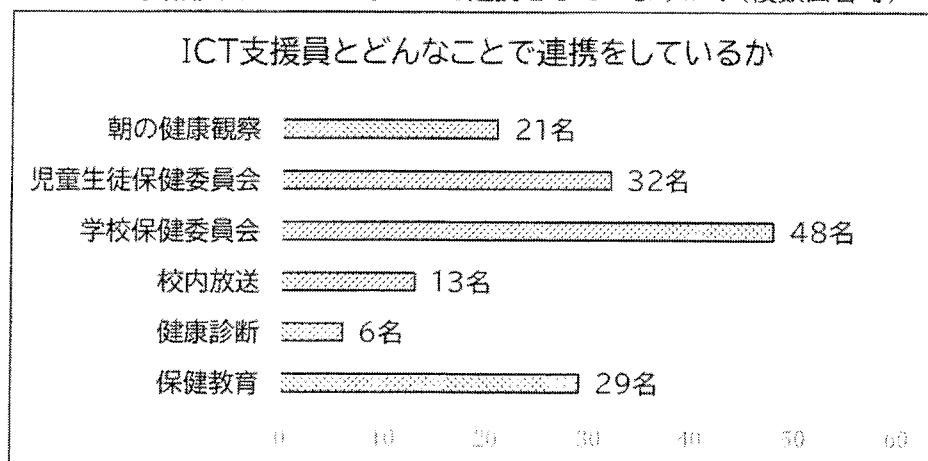


〈校種別〉これまでにICT支援員と連携しているか



Q3-2 ICT支援員さんと連携している方への質問

ICT支援員さんとどんなことで連携をしていますか？(複数回答可)



〈その他〉

- ・端末の操作支援、設定
- ・ソフトやアプリの操作支援
- ・職員向け調査、研究
- ・保健事務
- ・来室記録
- ・安全教育

Q3-3 ICT支援員さんと連携していない方への質問

連携していない理由を、よろしければ教えてください。

〈記述内容〉

- ・連携する必要がない、場面がない。
- ・連携する時間がない、合わない。
- ・ICTを活用できていない、場面がない。
- ・情報担当の教員と連携しているため必要ない。
- ・どう連携していいかわからない。
- ・質問しても解決しない。
- ・ICT支援員の窓口が情報担当の教員で個々に相談しづらい。
- ・校内全体でICT支援員と連携できていない。

【小学校における「ICT活用・支援員との連携」実際の実践】

1 ICTを活用した取組について

① 児童保健委員会

〈保健集会〉

- ・本校で多いけがの種類やけがが起こりうる危険な場面の動画を撮り、「iMovie」で編集する。当日は、全校で動画を視聴する。
- ・寒い季節に向けて、体を温めるようなストレッチの動画を撮り、朝会の時間に全校に流す。

〈目の愛護デー集会〉

- ・「CapCut」を使用し、目の周りのツボを押したり、遠くの緑を見て目の緊張を和らげたりする体操の動画を編集する。当日は、全校で動画を視聴し、みんなで目の体操をする。また、動画を担任のiPadに送り、各クラスで活用してもらう。

〈給食集会〉

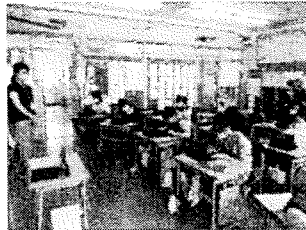
- ・好きな給食ランキングと戦後から現在までの給食の歴史について紹介する動画を撮り、「iMovie」で編集する。当日は、全校で動画を視聴する。

〈ぱくぱくだよりの放送〉

- ・当日の給食までにタブレットのボイスメモで録音する。給食中に職員が流す。

〈委員会活動の時間〉

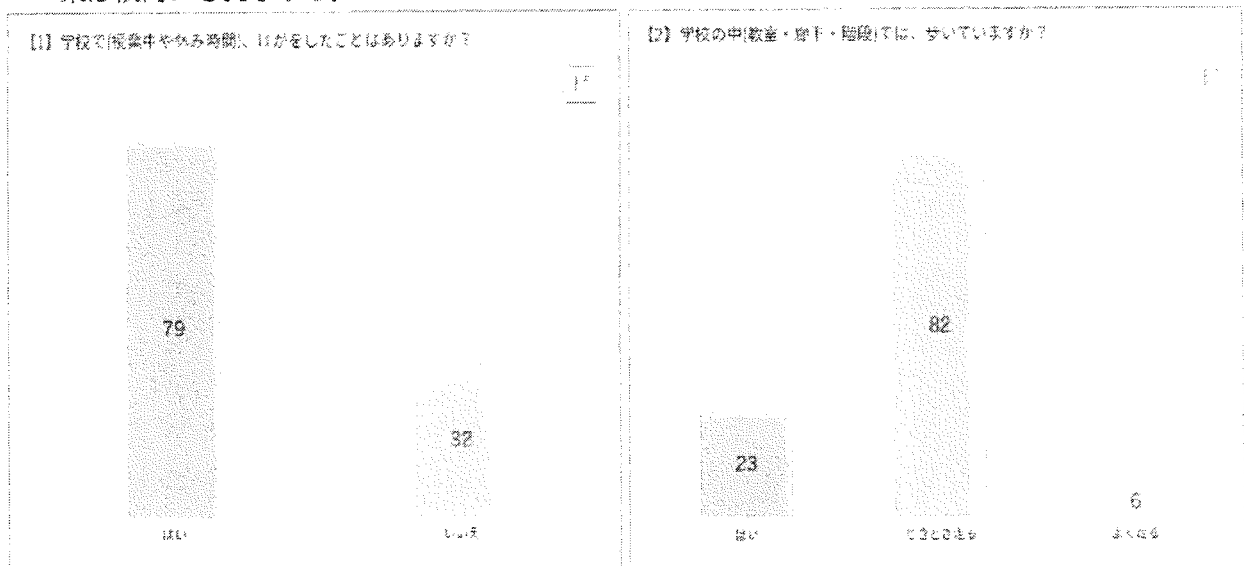
- ・ロイロノートを使って、児童からどんな活動が出来るかのアイデアをカードで送ってもらい、それをテレビに映して、全体で共有する。



委員会活動の時間に、ICT支援員に来ていただいたときの様子。

② 学校保健委員会

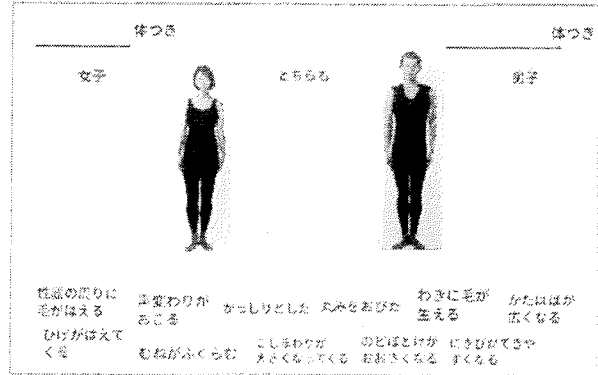
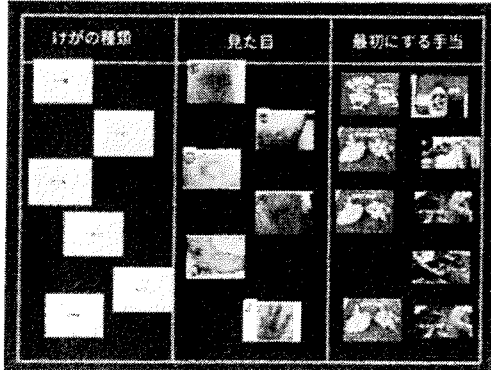
- ・テーマに沿った紙芝居を作成し、それをiPadでスライドにして、全校に流す。
- ・ロイロノートで全校児童にアンケートを実施し、学校保健委員会でアンケート結果を報告する。結果は校内にも掲示する。



③ 保健体育科授業及び保健教育

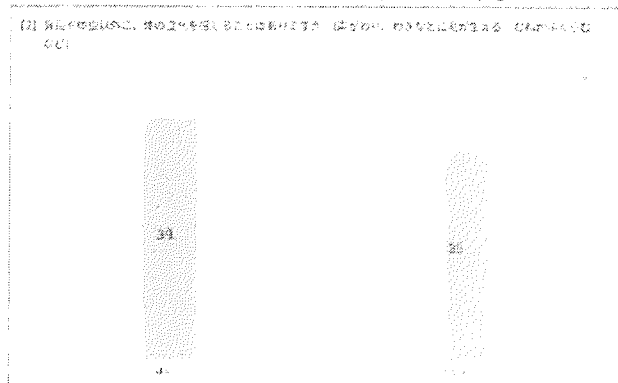
〈ワークシートとしての活用〉

けがの手当の授業、体の発育の授業において活用する。ロイロノートでは自由にカードを動かしたり、つなげたりすることができるため、限られた時間の中でも全員が作業することができる。また、ミラーリングでテレビ画面に映しながら確認作業ができるため、全体共有がしやすいというメリットもある。デメリットとしては、記録を iPad 上にしか残せないため、手元ですぐに振り返りをしにくいという点がある。

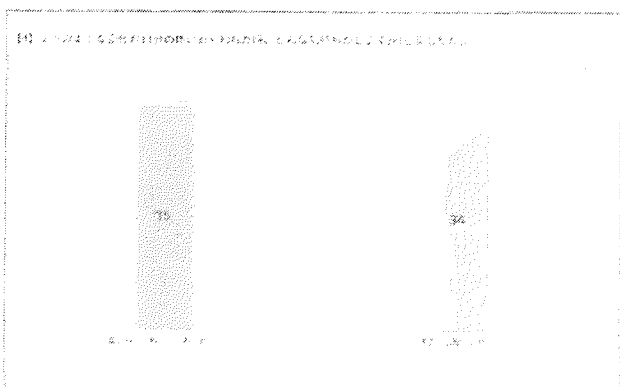
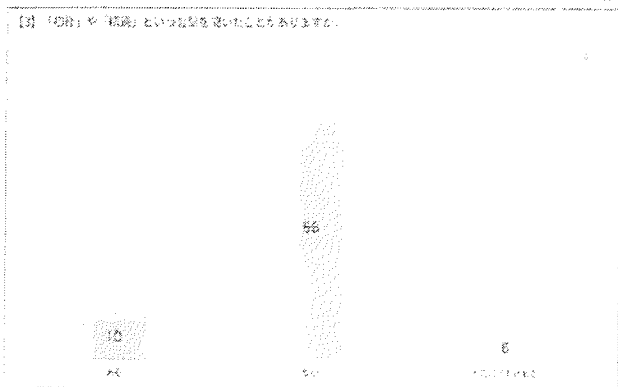


〈アンケート実施の際に活用〉

体の発育に関するアンケートの結果が教科書に掲載されているが、実際に本校の4年生ではどうなのか、ロイロノートで事前アンケートを行う。その結果を教材づくりの参考にしたり、実際に子どもたちに提示したりと授業展開に生かす。



プライバシー保護のため、内容や提示方法は考慮しつつ、自分事として捉えるための手立てとして活用。



〈パワーポイント・動画視聴の際に活用〉

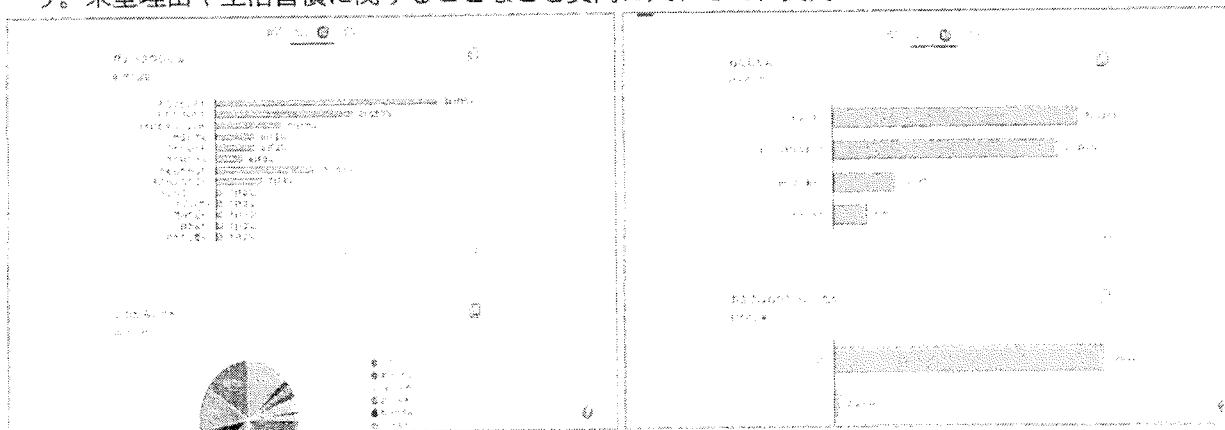
プライベートゾーンの指導の際、文部科学省が作成している「生命の安全教育のための教材及び指導の手引き」を活用する。児童の学年・実態に応じて、各教室で動画を視聴してもらったり、パワーポイントを使用して指導を行ったりする。

④ 健康診断の事前指導

心臓検診や視力検査の事前指導を動画で作成する。検診や検査の際は、各教室で動画を視聴してから実施する。新型コロナウイルス感染症対策として、保健室で大人数の児童に対して一斉指導ができないため、動画の視聴は有効である。

⑤ 来室記録

Google フォームで来室記録を作成する。保健室に1台専用の iPad を置き、児童が自身で入力を行う。来室理由や生活習慣に関することなどを質問に入れると、質問ごとに自動集計される。



2 ICT 支援員との連携について

① 連携した実践例

- ・日程の確認…支援員がいつ学校に来るかを把握する。(週に1～2回程度)
- ・時間の確保…各クラスへの指導もあるため、空いている時間を確認する。
- ・事前の打合せ…ICTを使って出来ることを聞いたり、活用のアイデアをもらったりして、活用場面や方法を考える。
- ・活動などへの参加依頼…予定が合えば児童保健委員会などの活動場所に来てもらう。
- ・作成へのアドバイス…児童が作成する動画などへアドバイスをもらい、よりよく仕上げる。
- ・振り返り…活用した反省とともに、今後もっと活用できる場面はないかを話し合う。

② 連携した感想

専門的なアドバイスをもらい、児童たちと一緒に活動を進めていくこともできたため、とても勉強になった。また、年間を通してさまざまな場面で ICT を活用できると感じ、今後も連携していきたい。

課題としては、来校日が少なく時間も限られているため、打合せをする日程を確保することが難しい。しかし、こちらから積極的に関わっていくことで、協力も得られ、短い時間でも十分に連携できたと思う。

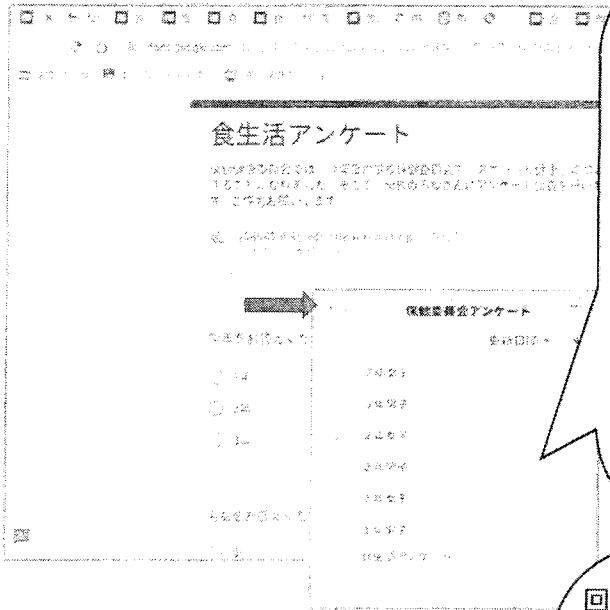
また、ICT 支援員と連携して ICT をもっと活用していきたいと考えても、養護教諭や級外職員には一人一台の端末が配当されていない学校がある。共用の端末を使用することができても、活用場面は限られてしまうため、学級担任以外の教職員にも一人一台の端末の配当が必要である。

【中学校における「ICT活用・支援員との連携」実際の取組】



1 ICTを活用した取組・支援員との連携について

① 保健教育

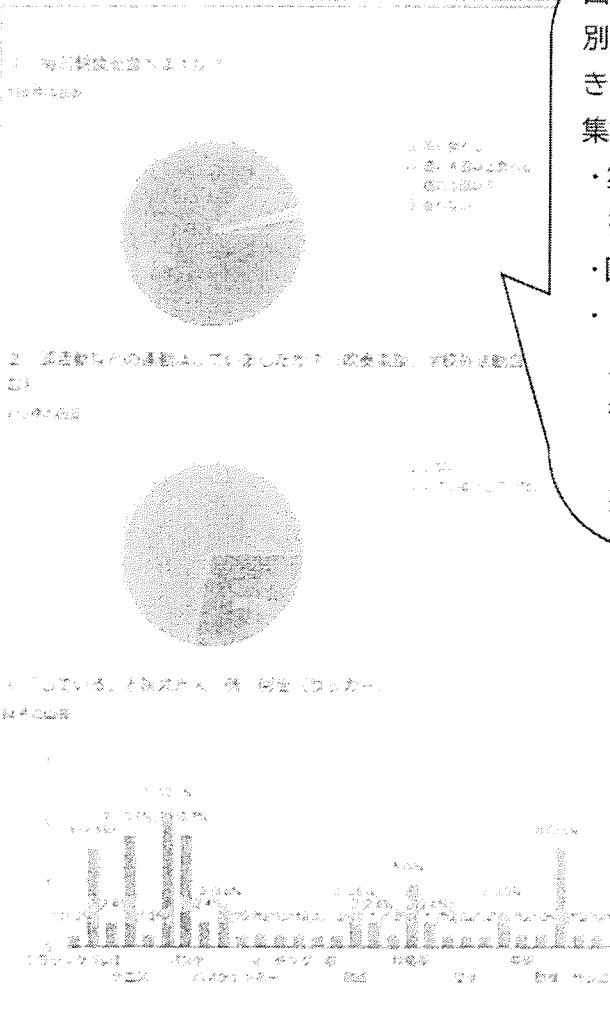
〈食育〉 Google フォームでアンケートを行う。




ロイロノートで Google フォームを配布する方法

- ・ Chromebook にてロイロノートとは別のタブで Google フォームを開く。
- ・ 配布したい Google フォームで、右上のプレビュー  を押す。
- ・ 右上のロイロ Web カード  を押す。
[Web カードを作成] を押す。
- ・ ロイロノートの中に Web カードが作られる。
- ・ 資料箱に入れる。

※回答するときは、Web カードを開き Q ボタンを押すと Google フォーム回答画面が開く。



回答の集計は、フォームの編集画面から確認でき、別途 Google スプレッドシートに集計することもできる。スプレッドシートに回答が保存されることで、集計後に編集や分析ができる。

- ・ 集計をしたい Google フォームで上部の [回答] を押す。
- ・ 回答画面で、右上のスプレッドシート  を押す。
- ・ [新しいスプレッドシートを作成] にチェックが入っている状態で、スプレッドシートのファイル名にはフォームのファイル名が入る。必要に応じファイル名を編集して [作成] を押す。

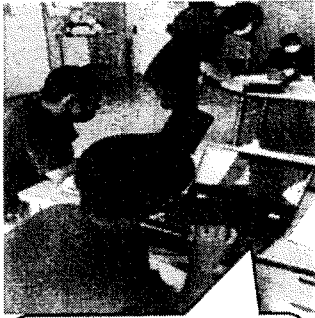
※スプレッドシートについては資料参照

② 学校保健委員会

〈文化祭での展示発表と動画発表〉

・生徒保健委員でアンケート内容を考え実施する。

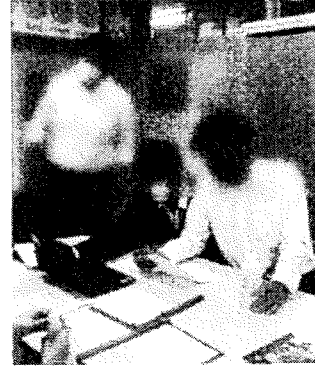
・アンケート結果から発表内容を考える。



アンケート作成も慣れ、サクサク聞きたい内容を入力!

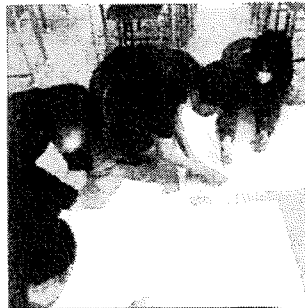


自分たちでアンケートに回答して、不備がないか、誤字がないかを確認!

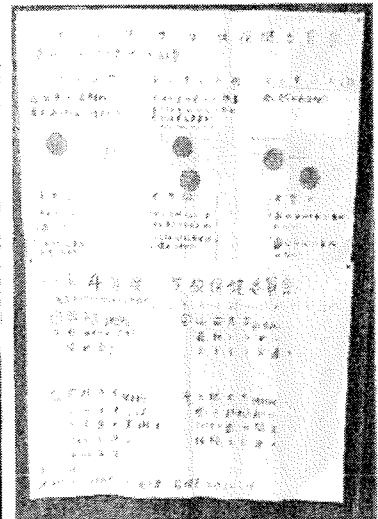


ICT支援員が、委員会活動の時間にiPadとChromebookの操作について話してくれると、作業がスムーズにすすめられる。

・動画の撮影と編集。



・アンケート結果を掲示発表する。



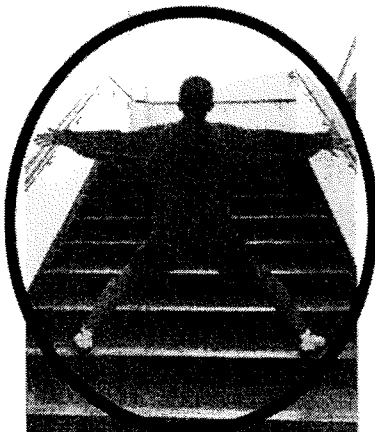
Chromebookについての悩み

- ・管理方法。 ・容量が少ない。 ・動画の画質が暗い気もする。
 - ・アプリが限られている。
- 無料アプリは「アプリインストール申請書」を小中学校企画課情報教育担当及び学校サポートデスクに提出すると追加可能。

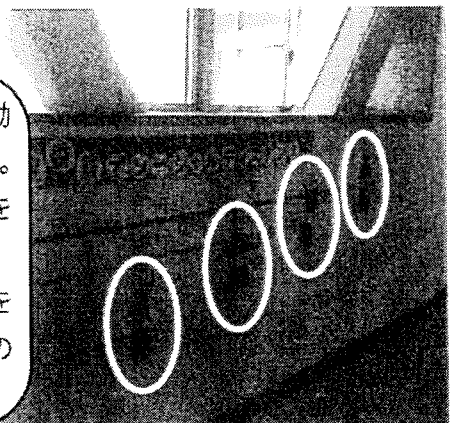
③ 生徒保健委員会

〈掲示物作成〉

・Chromebookを使用し、ソーシャルディスタンスに関する掲示を作成する。



合唱コンクール前の委員会活動で、距離感が分からないと話題に。生徒たちがChromebookで写真を撮り、翌朝には掲示物が完成。Chromebookを使うことで、画像を有効活用し、掲示物の作成時間の短縮につながっている。



〈サンドイッチコンテストのCM作成〉

朝食摂取率100%を目指し、栄養価が高く誰もが手軽に作れる美味しいサンドイッチを考案するコンテストを開催。

- ・縦割りグループごとにオリジナルサンドイッチを選出しCMの内容を考える。



- ・CM撮影と編集。

カンパがあれば練習しなくてもできる！

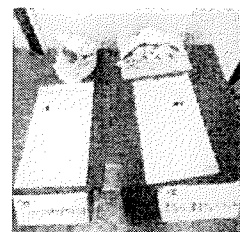


できるだけ大きな声ではっきり話す！

iPadでの撮影で声を拾いにくい、周囲の雑音が大きいとき。
→アフレコすることもできる。「iMovie」などで編集する際に、動画の音を0にして新たに音声を録音する。セリフを覚えていなくても後で撮ることができる。

- ・昼食時にCMを放送、文化祭でCMを参考にして投票。

事前にCMを放送しておくことで、スムーズに投票してもらおうことができるとともに、全校生徒に興味を持って参加してもらおうことができる。



2 ICTを活用したことによる、利点と課題について

利点

- ・より具体的にわかりやすく発信することができる。
- ・より生徒の興味関心を引き出すことができる。
- ・ICT活用力を身に付けることができる。
- ・話し合いや資料作成等の活動がクラウド上で同時に行うことができる。
- ・アンケートなど、全校生徒の意見を集計し、結果をグラフに反映することが簡単で、作業負担が軽減できる。

課題

- ・動画の撮影に慣れていない。音声がうまく拾えないことがある。
- ・動画編集を効率よく行えないことがある。
- ・教職員は、どのようなトラブルが発生する可能性があるのか、事前に予測することが必要。
- ・学校全体で行うために、全教職員がICTへの意欲と技術の向上が不可欠。
- ・ICTを活用した調べ学習などを発表する場合、情報リテラシーについての事前指導が必要。

NEW

ICT支援員だより vol.7

2022年12月7日
ICT支援員

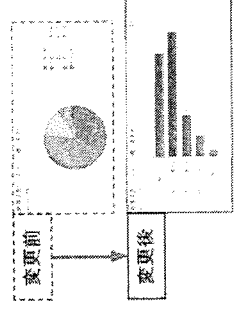
Google フォーム で集めた回答を再集計するには、Google スプレッドシート™ の「ピボットテーブル」を使うのがオススメです。意外にむずかしくないので、ぜひ使ってみましょう。

ICT活用ガイド

Excelでもピボットテーブルはあります。作り方はスプレッドシートの時と大抵同じです。

【活用編】フォームのラジオボタンで集計後「グラフ」にする、グラフの作り方

知る人ぞ知る、みたくない方法です。



回答をすべて集め終わった段階で

質問の種類を「ラジオボタン」から「チェックボックス」に変更する

※変更する前に、念の為「回答受付中」のチェックを外し「回答を付けていません」の状態にしておく
と良いです。

※テストモードの場合は、ラジオボタンでも棒グラフで表示されます。

【活用編】ピボットテーブルはこういう時に使える！

例えばこのようなフォームとスプレッドシートがあったとして…

朝食アンケート(朝)

朝食の種類

パン	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
粥	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
和食	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
洋食	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
麺類	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
その他	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

回答をスプレッドシートに出力

学年、クラスごとの
数を知りたい！

どうしよ…、これ
回答どうやって数えよう！
(置換とか数式とかはちよっど…)

というように時にピボットテーブルが役に立ちます。

【活用編】Google スプレッドシートのピボットテーブルの作り方 (簡単！)

一度作ればきっとまた作れます。便利なツールなのでぜひためしに作ってみてください。

- ①メニューの「挿入」→「ピボットテーブル」をタップ
- ②「作成」をタップ

この「データ範囲」はとりにくく、
①の手順前に表のどこかしらを選択して
いれれば範囲は自動的に決まる。

①

②

ここまでの手順を行うと、新しいシートに表が生成され、右側にピボットテーブルエディタが表示される。

③ピボットテーブルエディタで「行」「列」「値」にそれぞれの項目をドラッグする。

例えば…

「年」を「行」にドラッグ

「朝食は週に…ますか？」を「列」と「値」にドラッグ

【補足】
「値」の集計方式は、文字が数値かによって変わります。
文字の場合はCOUNTIA(数える)になっていますが、点数(1,2,3…)などの数値の場合はSUM(数値の合計)になります。
集計方式はあとから変更することも可能です。

以上で、表(ピボットテーブル)の完成！
このような表が作成されます。

「グラフ作成について」
メニューの「挿入」→「グラフ」で作成できます。
※詳細は省略。わからない場合は支援員にお聞きください。

V まとめと今後の課題

養護教諭の ICT 活用・支援員との連携について、現状を知るために行ったアンケートでは、158 名から回答を得ることができた。そのうち、約 85% の養護教諭が、これまでに ICT を活用していることがわかった。校種による大きな差はみられなかった。

ICT の主な活用場面は、「学校保健委員会」が一番多く、次いで「児童生徒保健委員会」が多かった。養護教諭が主となり指導していることが多く、定期的に活動時間があることや、児童生徒が比較的少人数単位で一緒に活動しやすいことが、ICT 活用に取り組みやすい状況と考えられる。次に多かった「朝の健康観察」については、「横浜市立学校の教育活動の再開に関するガイドライン（2020 年 11 月 26 日）」に、「健康観察票（登校時の健康状態の把握）として、「ロイロノート・スクール」の出欠機能を活用できます。」と記載されたことが、多くの学校での活用に至ったと考えられる。また、その他の回答から、「職員研修」や「避難訓練」など、さまざまな場面で、それぞれの養護教諭が工夫して活用していることがわかった。

一方で、活用していない理由として、「自分専用の端末が配当されていない」が多く、活用したい養護教諭が活用できない状況にあることに課題を感じた。活用場面や方法がわかりにくいことに関しては、実践推進校の事例を参考にしつつ、養護教諭が実際に活用している様子を共有できる場があるとよいと考える。

さらに、ICT 支援員と連携している養護教諭は、約 56% と半数程度にとどまっており、主な連携場面は、活用場面と重なっていた。連携している学校では、ICT 支援員が授業や活動と一緒に参加してくれることで、安心して端末を使用することができるとともに、今後の活用の幅が広がることにもつながっている。また、その他の回答から、業務内容である「教職員への ICT 機器や各種ソフトウェアの操作支援」も受けることができているとわかった。ICT を活用したいが「端末の使用方法がわからない」場合は、積極的に ICT 支援員に相談することをすすめたい。

ICT 支援員と連携していない理由では、「連携する時間がない・合わない」が挙がり課題である。校内では、限られた時間の中で必要な支援を受けられる仕組みを、情報担当の教員中心として相談できるとよいと考える。現状、支援員は複数校を兼務しており、訪問日が自校の希望に沿わない場合もあるため、訪問回数の増加が望まれる。なお、自分や校内職員で対応できるなど支援員と「連携する必要がない」と思われる場合も、「ICT 機器やネットワークに関するトラブルの一次切り分け、Y・Y NET 学校サポートデスクへの連携」など可能な業務内容を知り、必要に応じ連携することをすすめたい。

養護教諭が ICT 活用・支援員との連携をすすめるにあたり、まずは、一人一台の端末が全教職員に配当されることが早急に望まれる。今回の実践の共有が各校の ICT 活用・支援員との連携のきっかけやその推進につながれば幸いである。

